

付せん紙仕訳ゲーム 演習台帳



複式簿記の基礎知識

地方公会計制度を理解するには、複式簿記の基礎知識を身に付けることが有用です。

付せんを使った簡単な演習を通じて、理解していただきます。

複式簿記の基本ルール その1(取引の表現方法)

取引には、原因と結果という二つの側面があります。これらを左と右に分けてセットで表現していくことを複式簿記といいます。

例) 500万円の土地を現金で購入。

⇒複式簿記では、「500万円の土地が増加した」、「500万円の現金が減少した」という二つの面を同時に捉えます。

土 地 500万円 / 現 金 500万円

この書き方のことを「仕訳」と言います。

複式簿記の基本ルール その2（仕訳の定位置）

仕訳では、左側に書くものを「借方（かりかた）」、右側に書くものを「貸方（かしかた）」と呼びます。

借方に書くものと貸方に書くものには定位置があります。

【仕訳の定位置】

借方	貸方
資産の増加	資産の減少
負債の減少	負債の増加
純資産の減少	純資産の増加
費用の発生	収益の発生

演習

複式簿記の基本ルールは、この2つだけです。
言葉だけではイメージが湧きづらいと思います。
実際に付せんを使って仕訳を体験しましょう！

(必ず、実際に手を動かして演習をお願いします)

いろいろな取引を仕訳で表しましょう。

(付せんの書き方)

① 500万円の土地を現金で購入した。

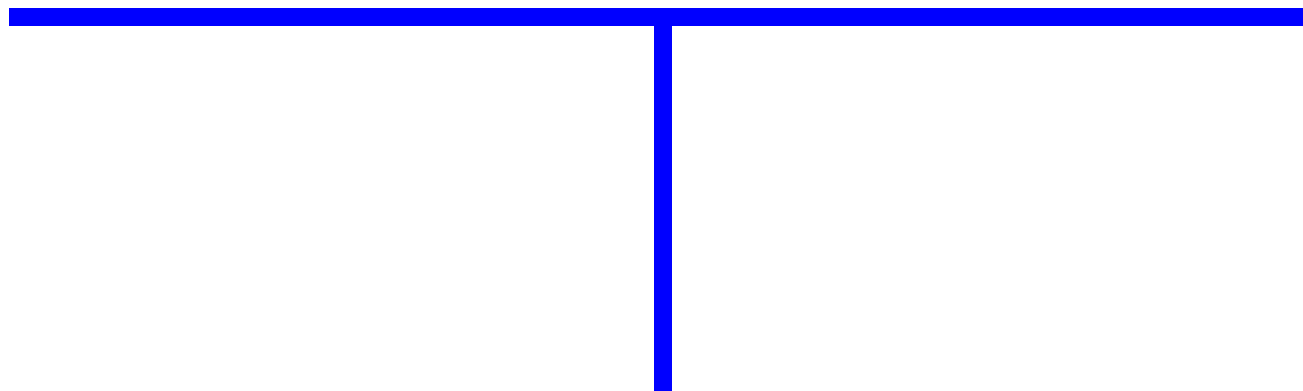
資産の増加
土地 500万円

⇒付せんの上段に定位置の表の分類を書きます。土地という資産が増えたので、「資産の増加」と書いてください。

⇒次に下段、土地を500万円で購入したので「土地 500万円」と書きましょう。

⇒その付せんを定位置に貼ってください！ 定位置はどこだったでしょうか？

⇒続いて、500万円の現金支払は資産の減少ですね。付せんの上段に「資産の減少」、下段に「現金500万円」と書きましょう。定位置に貼ってください。



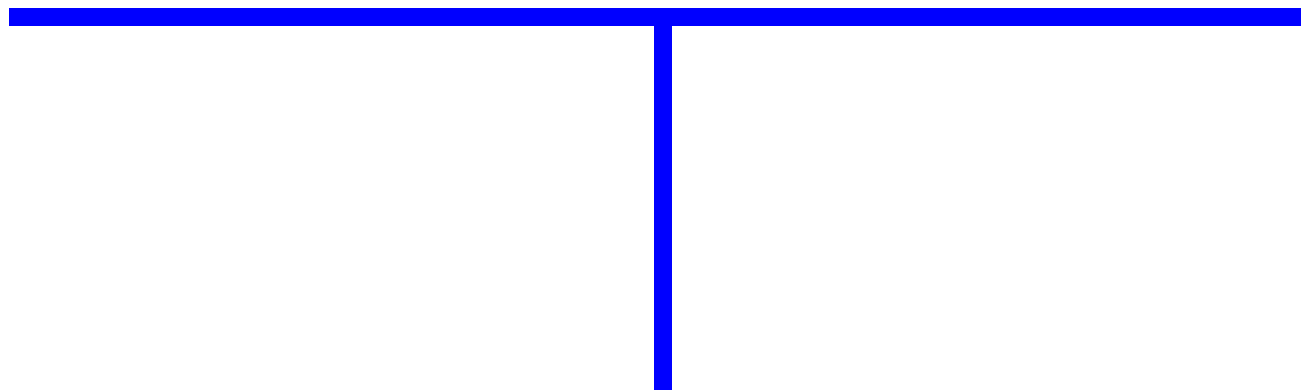
② 400万円の建物を建てた。借金200万円と現金200万円で支払った。

- 400万円の建物を建てたので資産の増加
- 200万円の借金をしたので負債の増加
- 200万円の現金を支出したので資産の減少

※付せんは3枚使ってください。

【仕訳の定位置】

借方	貸方
資産の増加	資産の減少
負債の減少	負債の増加
純資産の減少	純資産の増加
費用の発生	収益の発生

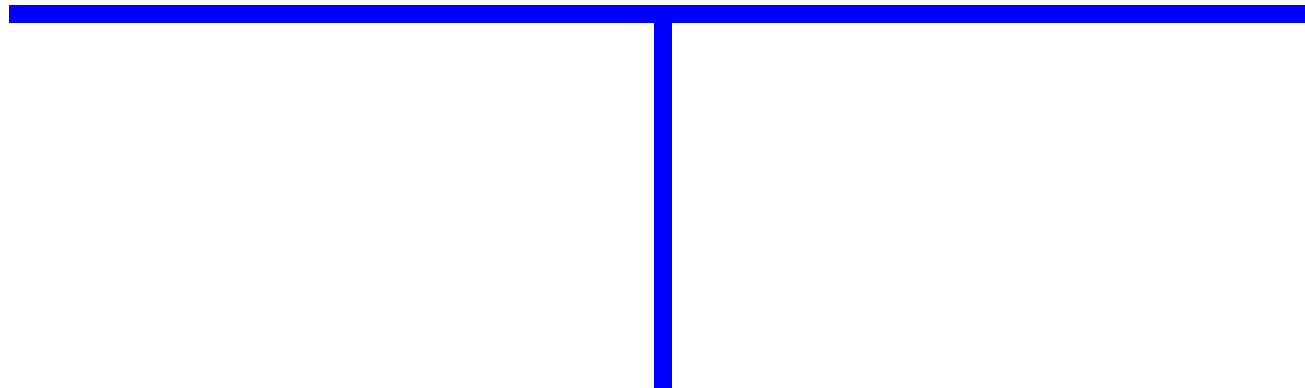


③ 100万円の光熱水費を現金で支払った。

- 100万円の費用が発生
- 100万円の現金が減少

【仕訳の定位置】

借方	貸方
資産の増加	資産の減少
負債の減少	負債の増加
純資産の減少	純資産の増加
費用の発生	収益の発生

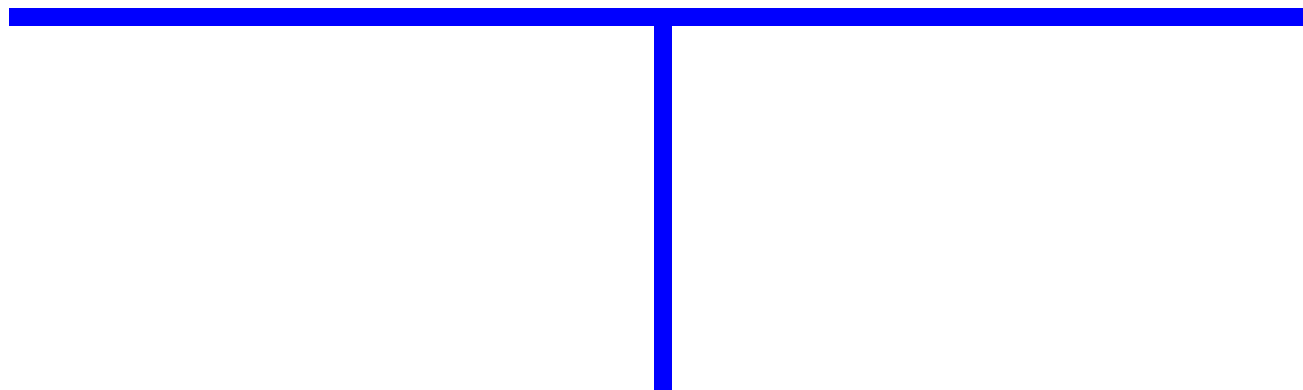


④ 50万円の使用料収入があった。現金で受け取った。

- 50万円の収益が発生
- 50万円の現金が増加

【仕訳の定位置】

借方	貸方
資産の増加	資産の減少
負債の減少	負債の増加
純資産の減少	純資産の増加
費用の発生	収益の発生



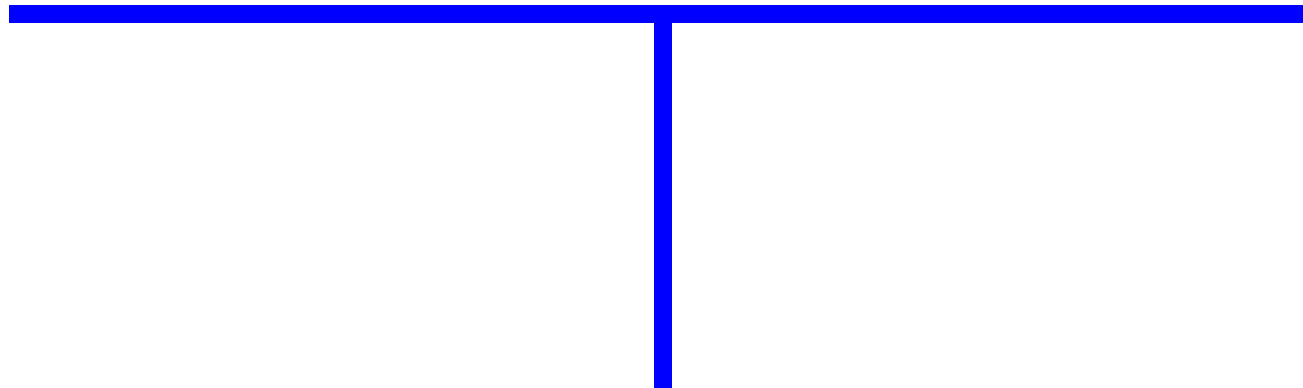
⑤ 800万円の税金が収納された。

- 800万円の現金が増加
- 800万円の税金により純資産が増加（※）

※純資産の増加と収益の発生については違いが分かりづらいかもしれませんが、これは国が示したルールとしてそういうものだと割り切ってください。税金は、住民からの出資であると捉える考え方によるものです。

【仕訳の定位置】

借方	貸方
資産の増加	資産の減少
負債の減少	負債の増加
純資産の減少	純資産の増加
費用の発生	収益の発生



演習 ～付せん紙の貼り替え～

続いて、財務書類の作成演習を行います。

付せん紙を貼り替え、行政コスト計算書と貸借対照表（バランスシート）をつくります。

行政コスト計算書

費用

費用の発生の付せんを集めて貼ってください。

収益

収益の発生の付せんを集めて貼ってください。

差引

費用と収益の差額を
費用より収益が多い場合は、
純資産の増加
コスト収支黒字 〇〇万円
収益より費用が多い場合は、
純資産の減少
コスト収支赤字 〇〇万円
と新しく付せんに書いて貼ってください。

貸借対照表 (バランスシート)

※「資産の増加」と「資産の減少」の付せんを貼ってください。
※同じ種類(現金など)は近くにまとめて貼ってください。

資産

※「負債の増加」と「負債の減少」の付せんを貼ってください。

負債

※「純資産の増加」と「純資産の減少」の付せんを貼ってください。

純資産

合計 万円

合計 万円

解答編



大東市アカウント探偵

いろいろな取引を仕訳で表しましょう。

(付せんの書き方)

① 500万円の土地を現金で購入した。

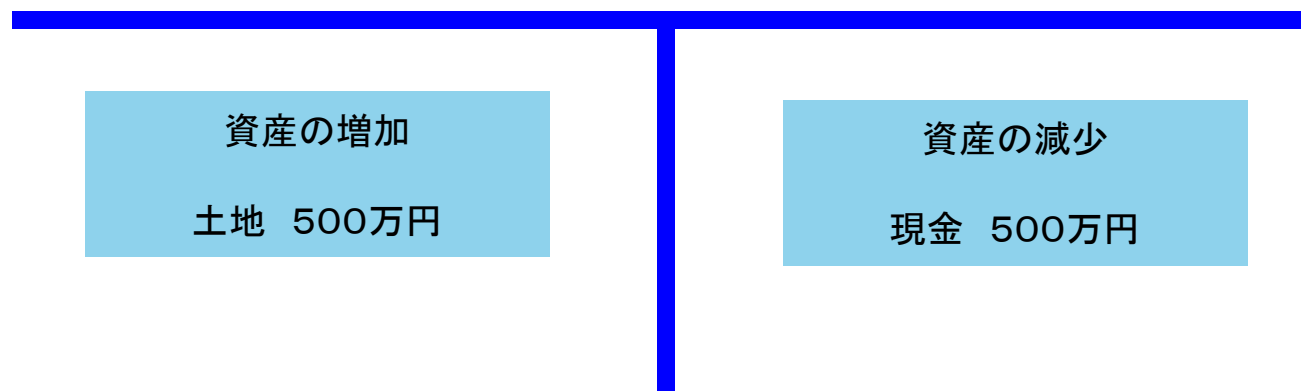
資産の増加
土地 500万円

⇒付せんの上段に定位置の表の分類を書きます。土地という資産が増えたので、「資産の増加」と書いてください。

⇒次に下段、土地を500万円で購入したので「土地 500万円」と書きましょう。

⇒その付せんを定位置に貼ってください！ 定位置はどこだったでしょうか？

⇒続いて、500万円の現金支払は資産の減少ですね。付せんの上段に「資産の減少」、下段に「現金500万円」と書きましょう。定位置に貼ってください。



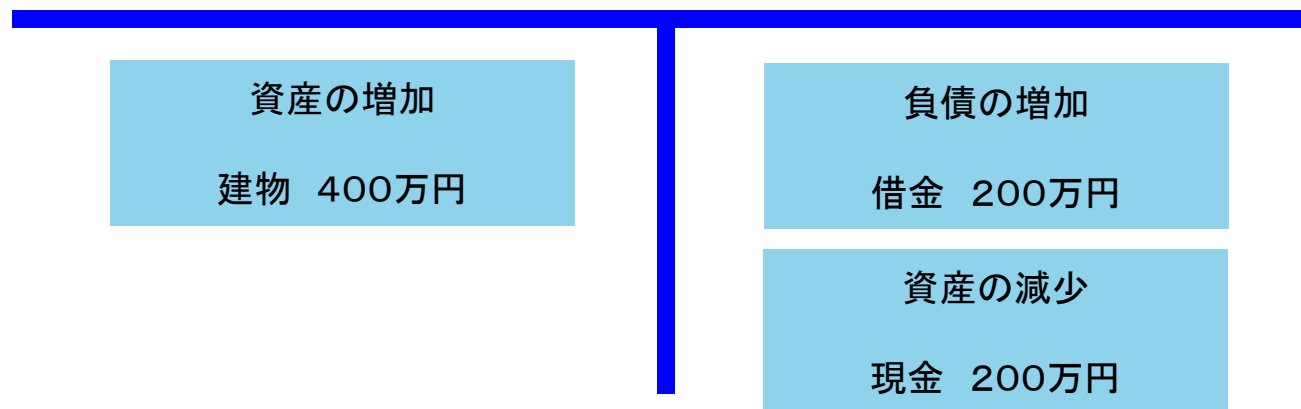
② 400万円の建物を建てた。借金200万円と現金200万円で支払った。

- 400万円の建物を建てたので資産の増加
- 200万円の借金をしたので負債の増加
- 200万円の現金を支出したので資産の減少

※付せんは3枚使ってください。

【仕訳の定位置】

借方	貸方
資産の増加	資産の減少
負債の減少	負債の増加
純資産の減少	純資産の増加
費用の発生	収益の発生

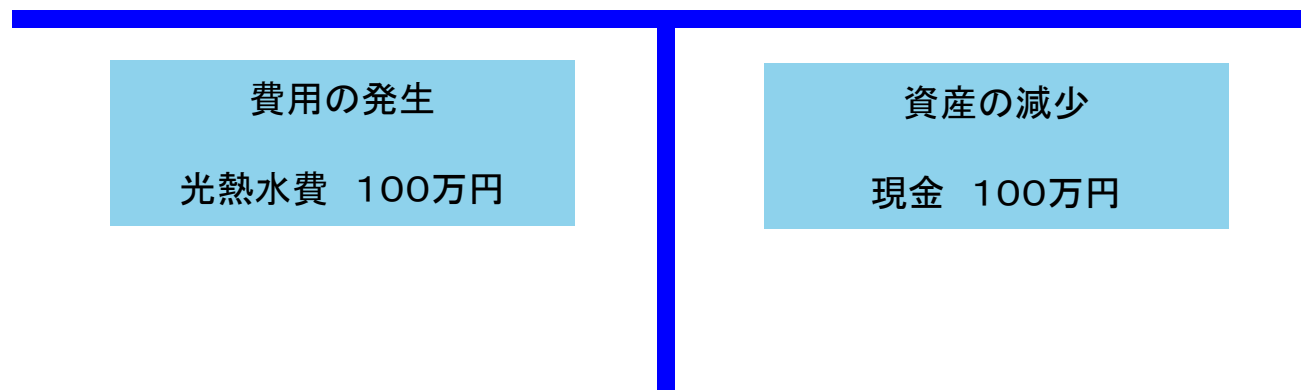


③ 100万円の光熱水費を現金で支払った。

- 100万円の費用が発生
- 100万円の現金が減少

【仕訳の定位置】

借方	貸方
資産の増加	資産の減少
負債の減少	負債の増加
純資産の減少	純資産の増加
費用の発生	収益の発生

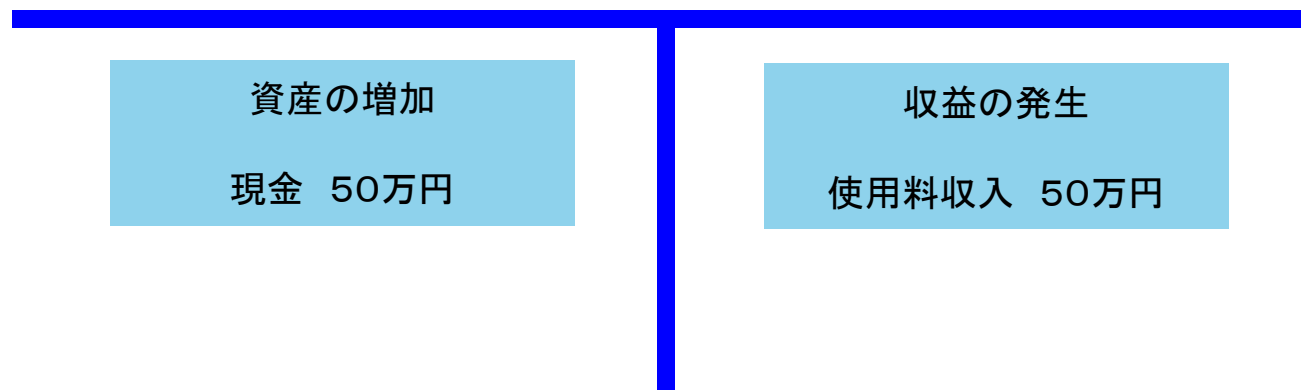


④ 50万円の使用料収入があった。現金で受け取った。

- 50万円の収益が発生
- 50万円の現金が増加

【仕訳の定位置】

借方	貸方
資産の増加	資産の減少
負債の減少	負債の増加
純資産の減少	純資産の増加
費用の発生	収益の発生



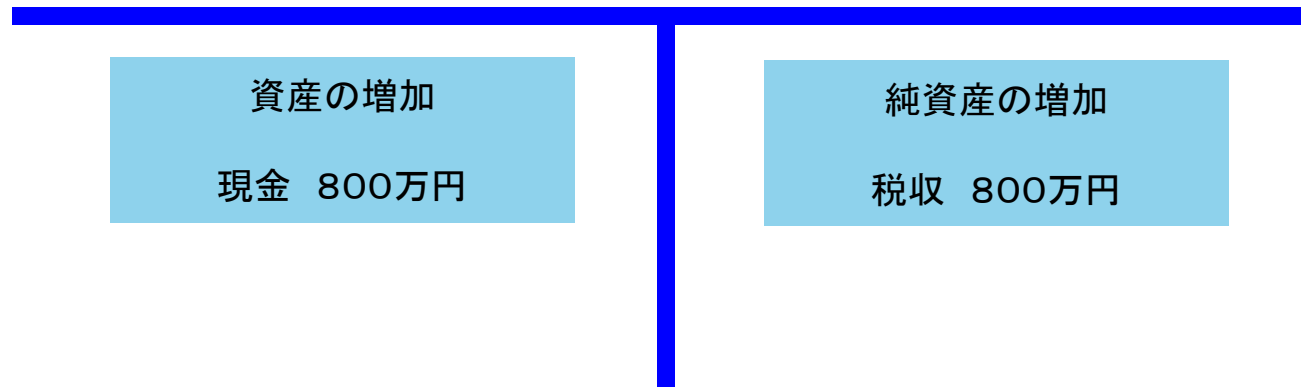
⑤ 800万円の税金が収納された。

- 800万円の現金が増加
- 800万円の税金により純資産が増加（※）

※純資産の増加と収益の発生については違いが分かりづらいかもしれませんが、これは国が示したルールとしてそういうものだと割り切ってください。税金は、住民からの出資であると捉える考え方によるものです。

【仕訳の定位置】

借方	貸方
資産の増加	資産の減少
負債の減少	負債の増加
純資産の減少	純資産の増加
費用の発生	収益の発生



行政コスト計算書

費用

費用の発生
光熱水費 100万円

費用の発生の付せんを集めて貼ってください。

収益

収益の発生
使用料収入 50万円

収益の発生の付せんを集めて貼ってください。

差引

純資産の減少
コスト収支赤字 50万円

費用と収益の差額を
費用より収益が多い場合は、
純資産の増加
コスト収支黒字 〇〇万円
収益より費用が多い場合は、
純資産の減少
コスト収支赤字 〇〇万円
と新しく付せんに書いて貼ってください。

貸借対照表 (バランスシート)

※「資産の増加」と「資産の減少」の付せんを貼ってください。
※同じ種類(現金など)は近くにまとめて貼ってください。

資産

資産の増加
現金 50万円

資産の減少
現金 500万円

資産の減少
現金 200万円

資産の減少
現金 100万円

資産の増加
現金 50万円

資産の増加
現金 800万円

資産の増加
土地 500万円

資産の増加
建物 400万円

合計 950 万円

※「負債の増加」と「負債の減少」の付せんを貼ってください。

負債

負債の増加

借入金 200万円

純資産

※「純資産の増加」と「純資産の減少」の付せんを貼ってください。

純資産の増加

税金 800万円

純資産の減少

コスト収支赤字 50万円

合計 950 万円